

原因不明小児急性肝炎の実態把握の研究

研究分担者 川田 潤一 名古屋大学小児科准教授

研究要旨：原因不明の小児急性肝炎の血液検体を用いて、各種のヘルペスウイルス、アデノウイルス、アデノ随伴ウイルス2型の検出をリアルタイムPCR法で行った。現在までに7症例を解析し、4例からウイルスが検出された。

A. 研究目的

小児の急性肝炎は、その臨床経過からウイルス感染症が原因と推測されるものの、原因が特定できず、治療に難渋する例も多い。2022年に欧米からアデノウイルスや、アデノ随伴ウイルスと小児急性肝炎との関連が報告された。本研究では原因不明の小児肝炎患者で、ヘルペスウイルスやアデノウイルスなどの関連を検討した。

B. 研究方法

原因不明肝炎の小児から採取された血液検体から、EBV、CMV、HHV-6、HHV-7、HSV、アデノウイルス、アデノ随伴ウイルス2型（AAV2）の検出をリアルタイムPCR法で行った。

（倫理面への配慮）

名古屋大学医学部の倫理委員会の承認を得て行った。また、本研究について対象患者から書面にて同意を得た。

C. 研究結果

期間内に7例の血液を解析した。CMV、HHV-6、HHV-7、アデノウイルスが各1例から検出された。一方で、EBV、HSV、AAV2は検出されなかった。

D. 考察

原因不明の小児急性肝炎患者の血液から、CMVなどのウイルスが検出され、肝炎との関連が示唆された。一方で、ヘルペスウイルスは生体内で潜伏感染することを特徴としており、特にHHV-6などは健常児から検出されることがある。そのため、検出されたウイルスと肝炎の因果関係については、慎重に判断する必要がある。一方で、欧米から報告のあったAAV2に関しては、期間内で検出された症例はなかった。

E. 結論

小児急性肝炎の原因ウイルスの同定にリアルタイムPCRは有用な手法である。今後も症例の蓄積が必要である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

Haruta et al. Droplet digital PCR development for adenovirus load monitoring in children after hematopoietic stem cell transplantation. J Mol Diagn. 2023, in press

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし